

第 11 回 JAILA 全国大会

プログラム・発表概要

第 2 版

同志社大学

新町キャンパス（尋真館）

2023 年 2 月 18 日（土）



はじめに

第11回 JAILA 全国大会は、2023年2月18日（土）、同志社大学（新町キャンパス）を会場に、対面で開催します。大会参加には、事前の申込手続きが必要です。

なお、当大会では、一部オンラインでの視聴も可能となっています。オンライン参加にかかわる事項は、特設サイトに掲載しております。特設サイトへのアクセスに必要な情報につきましては、大会参加申後（大会開催日まで）に、JAILA 事務局からメールでお知らせします。非会員の方におかれましては、オンラインのみの参加の場合でも、申込手続きが必要となります。

参加申込は、JAILA Web サイト（以下リンク）において受け付けております。

「[大会案内ページ \(https://jaila.org/activity/taikai20230218/taikai20230218.html\)](https://jaila.org/activity/taikai20230218/taikai20230218.html)」

上記ページをご覧くださいの上、期日までにお申込ください。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

本冊子には、当大会（対面）の概要および研究発表プログラムおよび発表概要を掲載しています。

ご不明な点がございましたら、大会運営事務局（office@jaila.org）にお問い合わせください。

改訂履歴

第1版	2023年1月23日	初版公開
第2版	2023年1月31日	ポスター発表者の氏名修正 (p13)

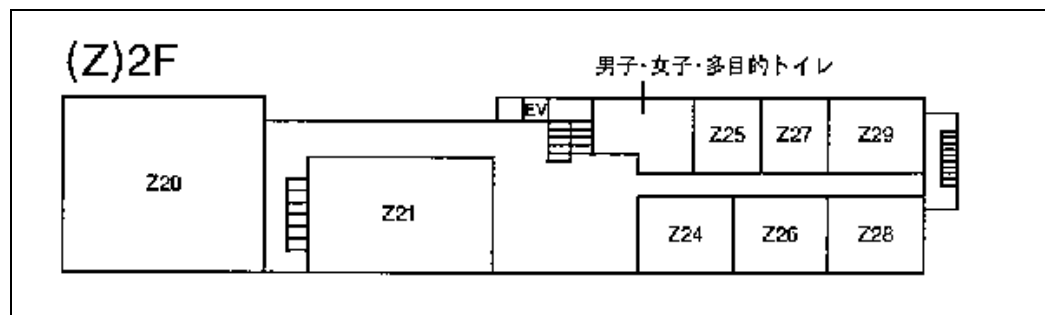
大会概要

【日時】 2023年2月18日(土) 9時20分～18時00分 ※ 受付開始 8:30～ (尋真館 2階)

【会場】 同志社大学 新町キャンパス (尋真館)
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入



尋真館館内図 (2階)



同志社大学よりデータ提供 (トリミングして該当部分転載)

【交通】 **地下鉄烏丸線** : 「今出川」 駅から徒歩 10分
京阪電車 : 「出町柳」 駅から徒歩 25分
バス停 : 「上京区総合庁舎前」 から徒歩 3分

【関連リンク】

[所在地]	同志社大学 Web サイト https://www.doshisha.ac.jp/information/campus/access/shinmachi.html
[構内図]	同志社大学 Web サイト https://www.doshisha.ac.jp/information/campus/imadegawa/shinmachi.html

【参加費】 正会員 無料、当日会員 1,000 円※¹、学生（フルタイム）・開催校関係者無料

※¹ オンラインのみの参加の場合は無料です

※² 情報交換会（懇親会）については、別途費用がかかります

【申込手続き】

参加には事前の申込が必要です。JAILA Web サイト（以下リンク）において受け付けております。

[大会案内ページ \(https://jaila.org/activity/taikai20230218/taikai20230218.html\)](https://jaila.org/activity/taikai20230218/taikai20230218.html)

[申込期限] **2月16日（木）18:00**

※ JAILA 会員の方におかれましても、対面参加の場合は、申込手続きが必要です。ただし、JAILA 会員で、かつ、オンラインのみの参加の場合は、申込不要です。

※ 情報交換会にご参加の方は 2 月 11 日までにお申し込みください。

【お願い】

- ・飲食は決められた場所のみでお願いします（飲食可能な場所は、当日、受付にてお知らせします）。
- ・**新型コロナウイルス感染拡大防止にご協力ください（マスク着用・検温実施へのご理解等）**

【情報交換会（懇親会）】

時間	18:30~20:30	場所・会費については予定です。 変更になることがあります
場所	同志社大学寒梅館[最上階] french restaurant will http://www.secondhouse.co.jp/will/ ※ 寒梅館について（同志社大学 Web サイトへのリンク）	
会費	一般 6,000 円（学生 3,000 円）	

※ 事前の申込が必要です（大会参加申込時に、情報交換会への参加希望の有無を指定ください）。

※ 情報交換会にご参加の方は 2 月 11 日までにお申し込みください。席数に限りがありますので、人数の上限に達した場合には途中で締め切りとさせていただきますのでご了承ください。

【開催判断について】

気象特別警報等の発令や大規模災害の発生等、大会参加者に危険が及ぶ恐れがある場合、開催にあたっての責任者（日本国際教養学会会長もしくは開催校委員長等）は、大会の開催中止を決定することがあります。開催中止と決定した場合には、直ちに [JAILA Web サイト（トップページ）](#) および [大会案内ページ](#) にて告知します。

【問い合わせ先（JAILA 事務局）】

〒700-8530 岡山市北区津島中 2-1-1
岡山大学 教育推進機構
五十嵐潤美 研究室
電子メールアドレス：office@jaila.org

日本国際教養学会： 2023年2月18日（土） 同志社大学新町キャンパス

JAILA 第11回全国大会プログラム

8:45-	受付（尋真館2階）		
9:20-9:30	開会式（Z21教室）		
教室	Z26教室	Z28教室	Z29教室
Session 1 司会	久世 恭子（東洋大学）	荻野 勝（岡山大学）	齋藤 安以子（摂南大学）
9:30-10:00	「日本の地方大学のグローバル化プロセスに関する研究：教授言語を英語とした授業の実施状況を中心として」 王 鏡洲（山口県立大学大学院生）	「戦前の英語教科書における英詩の披い方の特徴・工夫」 本田 雅宣（東京大学大学院生）	「「不平」場面における中級日本人英語学習者の連鎖組織：非優先性に対する学習者の志向に着目して」 鈴木 浩輔（広島大学大学院生）
10:00-10:30	「なぜ子どもたちはラオス語を知らないのか～ラオスの少数民族の村における国際教育支援とその効果に関する研究」 岸田 夕奈・北川 愛夏・宮城 ひなた（兵庫県立大学学生）・乾 美紀（兵庫県立大学）	「TOEICを対象とした英語学習に関するライフストーリー研究」 藤澤 真帆（世羅町立世羅西中学校）	「日本人英語学習者の前置詞習得における母語の影響—in と on に焦点をあてて—」 中川 梓（広島経済大学）
10:30-10:40	休憩		
10:40-12:20	Z21教室（オンライン・ライブ配信） シンポジウム：続・英語読解力再考——教育現場は「英語が読める」ことをどう捉えているのか？ 講師：福重 茜（神奈川県上鶴間高等学校教諭）、柁木 貴之（北海学園大学）、吉田 安曇（岡山大学） ディスカッサント：横山 千晶（慶應義塾大学） 司会：北 和丈（東京理科大学）		
12:30-13:50	ポスター発表（Z24, 25教室） *昼食は適宜お取りください。		
教室	Z26教室	Z28教室	Z29教室
Session 3 司会	坂本 南美（同志社大学）	鄭 成（兵庫県立大学）	内山 八郎（徳島大学）
14:00-14:30	「英語に堪能な若手小学校教師の英語音声指導観の変容過程②—発音の多様性に関する省察的語り」に焦点をあてて—」 和田 あずさ（宮城教育大学） ナットチー 直子（能勢ささゆり学園）	「観光サインにおける方言の多言語化」 黎 曉妮・松浦 英佐子・徐 沅廷（岡山商科大学）	「ライティング指導におけるセンテンス・コンバイニング練習：難易度の調査」 麻生 雄治（大分大学）
14:30-15:00	「他者を想うことで自己を知る—多文化・異文化理解教育の実践—」 草薙 優加（鶴見大学）	「音楽ワークショップ型授業が児童に与える影響—アンケート調査結果に基づく考察—」 小野 隆洋（山口芸術短期大学） 岩中 貴裕（山口県立大学）	「仮定法・依頼表現・ボライトネスを融合した指導の可能性—映画『美女と野獣』と『僕のワンダフル・ライフ』を用いて—」 松浦 加寿子（中国学園大学）
15:00-15:30	「多読授業受講者のナラティブを探究する」 深谷 素子（鶴見大学）	「グローバル人材から地球市民へ—大学カリキュラム開発の視点から—」 奥 聡一郎（関東学院大学）	「ESPとして医療英語—語彙難易度に焦点を当てて—」 竹野 純一郎（岡山理科大学）
15:30-15:40	休憩		
15:40-17:40	Z21教室（オンライン・ライブ配信） シンポジウム：教養としてのスポーツをどう捉え、教えるか 講師：大西 好宣（千葉大学）・中西 純司（立命館大学）・朴 ジョンヨン（神田外語大学）		
17:40-18:00	閉会式・総会（Z21教室）		
18:30-20:30	情報交換会（懇親会）		

研究発表・講演概要 目次

研究発表・午前の部	[Z26 教室]	9:30-10:00 / 10:00-10:30	1
日本の地方大学のグローバル化プロセスに関する研究：教授言語を英語とした授業の実施状況を中心として..... 1			
なぜ子どもたちはラオス語を知らないのか～ラオスの少数民族の村における国際教育支援とその効果に関する研究..... 1			
研究発表・午前の部	[Z28 教室]	9:30-10:00 / 10:00-10:30	2
戦前の英語教科書における英詩の扱い方の特徴・工夫..... 2			
TOEIC を対象とした英語学習に関するライフストーリー研究..... 2			
研究発表・午前の部	[Z29 教室]	9:30-10:00 / 10:00-10:30	3
「不平」場面における中級日本人英語学習者の連鎖組織：非優先性に対する学習者の志向に着目して..... 3			
日本人英語学習者の前置詞習得における母語の影響—in と on に焦点をあてて—..... 3			
研究発表・午後の部	[Z26 教室]	14:00-14:30 / 14:30-15:00 / 15:00-15:30	4
英語に堪能な若手小学校教師の英語音声指導観の変容過程②—発音の多様性に関する省察的語り に焦点をあてて—..... 4			
他者を想うことで自己を知る—多文化・異文化理解教育の実践—..... 4			
多読授業受講者のナラティブを探究する..... 4			
研究発表・午後の部	[Z28 教室]	14:00-14:30 / 14:30-15:00 / 15:00-15:30	5
観光サインにおける方言の多言語化..... 5			
音楽ワークショップ型授業が児童に与える影響—アンケート調査結果に基づく考察—..... 5			
グローバル人材から地球市民へ—大学カリキュラム開発の視点から—..... 5			
研究発表・午後の部	[Z29 教室]	14:00-14:30 / 14:30-15:00 / 15:00-15:30	6
ライティング指導におけるセンテンス・コンバイニング練習：難易度の調査..... 6			
仮定法・依頼表現・ポライトネスを融合した指導の可能性—映画『美女と野獣』と『僕のワンダフル・ライフ』を用いて—..... 6			
ESP として医療英語—語彙難易度に焦点を当てて—..... 6			
シンポジウム1(午前)	[Z21 教室+ライブ(Zoom)]	12:30-13:50	7
続・英語読解力再考—教育現場は「英語が読める」ことをどう捉えているのか？..... 7			

シンポジウム2(午後)	[Z21 教室+ライブ(Zoom)]	15:40-17:40	8
<p>教養としてのスポーツをどう捉え、教えるか..... 8</p>			
ポスターセッション	Z24,25 教室+オンデマンド(PDF 閲覧)	12:30-13:50 / 2/18~2/25	9
<p>交換留学生在が日本の高校教育現場に与える影響と相乗効果に関する調査 9</p> <p>フェイクな彼らのリアルはどこに? : <i>The Great Gatsby</i>における「演技」を精読する 9</p> <p>世界遺産をめぐる観光コミュニケーション~翻訳論及び認知文体論的視点から~ 10</p> <p>観光地に描かれる自然環境~語りと文体に焦点を当てて~ 10</p> <p>物語り、演じることを通した地域支援の取り組み—家島小学校におけるミソドラマの実践から—..... 11</p> <p>New Colombo Plan によるオーストラリア人大学生の短期日本研修 11</p> <p>大学生における外来語意識の稀薄化について 11</p> <p>Recurrent education, life satisfaction, and anxiety in Japan during the COVID-19 pandemic 12</p> <p>占領下日本の美術政策とシャーマン・リー : GHQ 美術記念物課の仕事から 12</p> <p>超短期留学を経験した医療系学生の海外志向の変容—全員留学を掲げる千葉大学の事例—..... 12</p> <p>Promoting pupae: Plurilingual writing workshop with authentic materials and real-world tasks 13</p> <p>大学英語教育における高年次との連携体制の構築に向けて : 岡山大学の事例紹介 13</p> <p>英語学習者のナラティブ研究 : グローバル人材のライフストーリーにみる内的要因について 13</p> <p>外国にルーツを持つ子どもたちを取り残さないために何ができるか~学生団体 Jyoto's によるグローバルな学習支援の展開..... 14</p>			
ポスターセッション	オンデマンド(PDF 閲覧)	2/18~2/25	14
<p>なぜ文学的な教材を使うのか—教員の信念や意識を探るインタビュー調査から 14</p> <p><i>Vera; or The Nihilists</i> に描かれる人間関係と人物に対する表現について 14</p>			

JAILA 第 11 回全国大会 研究発表概要

研究発表・午前の部 [Z26 教室] 9:30-10:00 / 10:00-10:30

日本の地方大学のグローバル化プロセスに関する研究：教授言語を英語とした授業の実施状況を中心として

王 鏡洲 山口県立大学 大学院生

本研究の目的は、教授言語を英語とした授業が日本人大学生英語学習者に与える影響を明らかにすることである。日本国内の大学生を調査参加者としてアンケートとインタビューによって調査を実施した。英語で行われる授業に対する意欲、教授言語を英語とした授業に対する期待、受講することによって得られる効果を明らかにすることを試みた。更に今後の大学における教授言語を英語とした授業のあり方について考察を加える。

なぜ子どもたちはラオス語を知らないのか～ラオスの少数民族の村における国際教育支援とその効果に関する研究

岸田 夕奈 兵庫県立大学 学生

北川 愛夏 兵庫県立大学 学生

宮城 ひなた 兵庫県立大学 学生

乾 美紀 兵庫県立大学 教授

私たちが所属する学生団体 CHISE (チーズ) は、ラオス北部の山岳地帯の貧困村に教育支援をしている。昨年ロンロード村でオンライン視察を実施した際、同村では児童数及び教員の不足から、幼稚園がなく、小学校高学年でもラオス語の読み書きができないという課題を発見した。そこで CHISE は、現地で幼稚園児を対象としたラオス語識字教室を開催するサポートを行っている。本発表では、その具体的な取り組みと効果を発表する。

研究発表・午前の部 [Z28 教室] 9:30-10:00 / 10:00-10:30

戦前の英語教科書における英詩の扱い方の特徴・工夫

本田 雅宣 東京大学 大学院生

戦前の英語教科書では、今よりも英詩が多く使用されている。本研究では、日本人によって編纂された英語教科書として有名な、Globe readers と Crown readers における英詩の扱い方の特徴や工夫を分析し、次のような点が確認された。

- ・英詩がメインの正課の数が、正課全体の 10%~20%となっている。
- ・内容的に相互関連のある英詩と散文が使用されている。
- ・数行の短い英詩が、課の終わりに配置されている。
- ・詩以外にも、詩的な特徴をもつ文が使用されている。

以上のような知見を元に、これからの英語教科書において英詩を使用する可能性や意義を論じたい。

TOEIC を対象とした英語学習に関するライフストーリー研究

藤澤 眞帆 世羅町立世羅西中学校 教諭

本研究では調査対象者自身の人生にフォーカスを置き、その人の人生経験をもとにした語りから自己の生活世界について読み解くことを目的とする。よってライフストーリー研究の手法を用いて学生 2 名を対象に彼らの英語学習に対する内面的要素を探った。彼らは幼児期及び児童期に人生の分岐点で進む方向を照らす出来事を経験していた。その分岐点は、その後の人生にも少なからず影響を与え続けていると考えられる。また、彼らにとっての挫折は他者と比較した際に感じた自己劣等感によるものであった。

「このままではダメだ」と焦る気持ちから、自身を分析し改善策を考えることへ視点をシフトすることとなった「ブレイクスルー期」では、目標となる人物や具体的な目標点数、語学試験合格という目標設定からモチベーションを引き出し、それは彼らが学習を続けてきた要因と深く結びついていた。このような彼らのライフストーリーを、英語学習において苦に感じている生徒に、彼らの今後の人生のヒントとして紹介していくことで、そういった生徒の手助けをしていく架け橋となるだろう。

研究発表・午前の部 [Z29 教室] 9:30-10:00 / 10:00-10:30

「不平」場面における中級日本人英語学習者の連鎖組織：非優先性に対する学習者の志向に着目して

鈴木 浩輔 広島大学 大学院生

優先組織は対話者間の社会的調和に関わる会話の基本原則であり、優先的行為は緩和なしに即座になされる一方、非優先的行為は前置きやためらいを伴い遅延することが多い。しかし、「不平」の非優先性への志向と目標言語習熟度の関係に着目し、学習者の相互行為を分析した研究はほとんどない。本研究は、中級日本人英語学習者が、相互行為において非優先性を志向しながら「不平」を行うかについて、応用会話分析を用いて調査した。

日本人英語学習者の前置詞習得における母語の影響—in と on に焦点をあてて—

中川 梓 広島経済大学 講師

英語の第二言語学習者にとって、前置詞を習得するのはとても困難であると言われており、その要因として、母語の影響が多くの文献において言及されている。日本語と英語においても意味と形式の両方の方略の違いが明らかにされている。本発表では、意味に重点を置き、約 20 名を対象とした空間把握実験と英語テストの結果から、日本人英語学習者がどのように空間を把握しているのか、また前置詞の習熟度との相関について発表する。

研究発表・午後の部 [Z26 教室] 14:00-14:30 / 14:30-15:00 / 15:00-15:30

英語に堪能な若手小学校教師の英語音声指導観の変容過程②—発音の多様性に関する省察的語り—
をあてて—

和田 あずさ 宮城教育大学 講師
ナットチー 直子 能勢ささゆり学園 教諭

本発表は、英語に堪能な若手専科教師の英語音声指導観が、授業実践の積み重ねによりどのように変容していくのか、そしてこの過程が教師としての成長といかに結びついているのかについて探究するものである。本発表では、発音の多様性に関する省察的語りから導かれた「英語が母語でない ALT の発音や児童の発音への着眼と認識の変容」「自らの教師としての役割と ALT との同僚性の構築」という二つの主題に関わる事例の解釈を取り上げる。

他者を想うことで自己を知る—多文化・異文化理解教育の実践—

草薙 優加 鶴見大学 教授

不透明な時代を生きる私たちが幸福であるために、OECD (2002)は単なる知識や技能を超えた力 (キー・コンピテンシー) の獲得を提言し、日本の初等・中等・高等教育に大きな影響を与えた。その一つに、「多様な社会グループにおける人間関係形成能力」がある。外国語教育においても言語と技能重視の学習から、他者から学び、他者を想って考える過程から自分自身を知ることが求められている。その実現には、演劇やゲストの語りを導入することが効果的である。本発表では、このアプローチによる実践を紹介する。

多読授業受講者のナラティブを探究する

深谷 素子 鶴見大学 教授

多読への批判が後を断たない。正確な英文理解を伴わない多読は誤読につながる。Graded readers はオリジナル版の歪曲だ。多読は文法学習や精読を軽視している等々。しかし、これらの批判が見逃しているのは、多読授業という枠組みが、英語力の高低や英語学習への好悪にかかわらず学習者全体を包摂しつつ、個別指導を通して自律的学習態度を喚起する機能を有している点ではないか。この仮説に基づき、本発表では多読授業受講者の言語データからその生の声 (ナラティブ) に耳を傾け、多読授業で学習者が何を体験しているのかを明らかにしたい。

観光サインにおける方言の多言語化

黎 暁妮 岡山商科大学 教授

松浦 芙佐子 岡山商科大学 教授

徐 沈廷 岡山商科大学 准教授

街中の観光サイン（観光客が目にする看板や掲示など）に方言使用を目にすることがある。方言は地域らしさを演出する地域資源として観光での活用が奨励されている。しかし、訪日旅行者にとって方言の意味やニュアンスの理解は容易ではあるまい。そこで本発表では、方言サインは多言語化できるのか、どのような多言語化が望ましいのか、岡山駅近くに設置された岡山方言サインの多言語化を足掛かりに、方言とその多言語化の問題を論じる。

音楽ワークショップ型授業が児童に与える影響—アンケート調査結果に基づく考察—

小野 隆洋 山口芸術短期大学 准教授

岩中 貴裕 山口県立大学 教授

短期集中型の学習形態を特徴とするワークショップが、児童に与える影響を明らかにすることを本研究の目的とする。音楽ワークショップ型授業で、プロの音楽演奏を鑑賞した児童に対してアンケート調査を実施した。鑑賞活動を通じた学びと児童の音楽に対する態度変容との関連について、アンケート調査結果の分析に基づいて考察する。コロナ禍における音楽ワークショップ型授業の現状と課題を報告し、今後のあり方を検討する。

グローバル人材から地球市民へ—大学カリキュラム開発の視点から—

奥 聡一郎 関東学院大学 教授

8年前の JAILA 全国大会で「グローバル人材の育成」と大学教育改革を発表した。この8年間に地球規模の環境問題、SDGs 等の新たな問題解決の視点が生まれ、「国際教養」を学ぶカリキュラムが多く大学の取り入れられてきた。「地球市民」育成へパラダイムシフトが進む中、コロナ禍、ウクライナ情勢、円安など考慮すべき事例の分析が必要である。本発表では、大学教育におけるグローバル化推進の課題を再検討する。地球市民育成の展望を踏まえ、内部質保証に迫られる大学教育のグローバル化推進をカリキュラム開発の観点から示したい。

研究発表・午後の部 **[Z29 教室]** 14:00-14:30 / 14:30-15:00 / 15:00-15:30**ライティング指導におけるセンテンス・コンバイニング練習：難易度の調査**

麻生 雄治 大分大学 教授

センテンス・コンバイニング (二つ以上の単文を新たな派生形を作るために付け加え、埋め込みなどのさまざまな変形操作を加えて結合する過程) によって、文を接続する方法を 8 つの型に分類した。日本人英語学習者にとって、易しい、あるいは難しいとする型はどれであるかを練習問題の中で調査し、今後のライティング指導における効果的なセンテンス・コンバイニング練習の内容を提案する。

仮定法・依頼表現・ポライトネスを融合した指導の可能性—映画『美女と野獣』と『僕のワンダフル・ライフ』を用いて—

松浦 加寿子 中国学園大学 准教授

本発表では、英語教育における映画教材の役割について論じる。具体的には、映画を活用して仮定法と依頼表現、さらにポライトネスを融合した指導を行うことが文字情報のみの指導と比較して、より効果的な指導法と成り得るかについてエビデンスに基づいて検証した結果を報告する。また、語用論と指導に関するアンケート結果の詳細も併せて紹介することで、映画を活用した指導が仮定法と依頼表現、さらにポライトネスの理解と定着に与える教育的効果について明らかにしたい。

ESP として医療英語—語彙難易度に焦点を当てて—

竹野 純一郎 岡山理科大学 教授

日本の英語教育は EGP (English for General Purposes) が中心であるため、日本人英語学習者は、日常的な使用を目的とする英語で現れる高頻度の語彙から順に学ぶ。一方で、ESP (English for Specific Purposes) では特定目的の英語を学ぶため、使用語彙は分野によって大きく異なる。本発表では、ESP としての医療英語で扱われる語彙に焦点を当てて、語彙レベル解析プログラムを用いてその難易度を明らかにする。

シンポジウム1(午前) [Z21 教室+ライブ(Zoom)] 12:30-13:50

続・英語読解力再考——教育現場は「英語が読める」ことをどう捉えているのか？

講師：福重 茜 神奈川県上鶴間高等学校 教諭

柁木 貴之 北海学園大学 准教授

吉田 安曇 岡山大学 非常勤講師

ディスカッサント：横山 千晶 慶應義塾大学 教授

司会：北 和丈 東京理科大学 准教授

日本の文脈において英語教育・学習を論ずるに当たり、英語読解力、すなわち英語が読める能力を涵養することの意義が軽んじられることはまずあり得ないとしても、その「英語が読める」という言葉の定義を突き詰めて考えると、そこには全く議論が噛み合わない可能性すら孕んだ危うさが潜んでいることがわかる。現代の日本に生きる我々にとって、果たして「英語が読める」とは、誰が、何を、どのように読めることを意味していると考えべきなのだろうか。本企画は、この難題への取り組みに先鞭をつけた日本英文学会第 94 回全国大会第 12 部門シンポジウムの続編として、様々な教育現場の視点から「英語読解力」像のいまを複眼的に捉え、日本の英語教育が進むべき道筋を見出そうとする試みである。

シンポジウム2(午後) [Z21 教室+ライブ(Zoom)] 15:40-17:40

教養としてのスポーツをどう捉え、教えるか

講師: 大西 好宣 千葉大学 教授

中西 純司 立命館大学 教授

朴 ジョンヨン 神田外語大学 准教授

教養を意味するリベラルアーツは、よく知られるように古代ギリシャで生まれた概念である。古くは自由7科としても通称され、具体的には文法学・修辞学・論理学・算術・幾何学・天文学・音楽を指す。しかしながら、何をもって教養と見做すかは時代や地域に応じた差異や変化が本来あるはずで、さしずめ現代ならば映画などのメディア映像や文学、或いは歴史・地理などを教養の一つとして含めることに対し、異論を唱える者はよもやいないであろう。

では、スポーツはどうであろうか。今日、新聞やラジオ・テレビのニュースでは必ずと言って良いほどスポーツが取り上げられ、政治や経済、国際といったジャンルに匹敵する分野になっている。その結果、2019年のラグビーブーム、2021年の東京オリンピック・パラリンピック、そして米メジャーリーグでの二刀流・大谷選手の活躍は、多くの人の関心事となった。実技としてのスポーツとは別に、その歴史や価値、或いは社会現象を対象とする学術研究は実際、各国で行われている。

これらの事実からすれば、スポーツを現代的な意味での新たな教養と見做すことには十二分な理由がある。では、大学で実技以外にスポーツが授業として取り上げられ、現代の教養として語られる場面はそれほど多いであろうか。答えはおそらく否である。そこで本シンポジウムでは、まずスポーツの持つ現代的な価値や教養としての側面について改めて捉え直し、次に数少ないながらも現時点で展開されている幾つかの大学の試みを紹介する。

 交換留学生在が日本の高校教育現場に与える影響と相乗効果に関する調査

豊嶋 由美子 山口県立大学 大学院生

ウィルソン・エイミー 山口県立大学 教授

古川 恵子 山口県立大学 大学院生

山口県内の高校には、毎年海外からの留学生 (A F S 日本協会交換留学プログラム) が配属されている。covid-19 の発生により、海外研修や外国人との交流が困難となった学校は、国際交流活動の低迷を懸念して留学生の受け入れに積極的に取り組んでいる。オンライン交流で海外との繋がりを持つことに移行しつつ、「実際留学生在が校内にいる事の大切さを実感する」との声から、留学生在の存在が何をもたらすかを、質問紙調査で実施した。

 フェイクな彼らのリアルはどこに? : *The Great Gatsby* における「演技」を精読する

深谷 素子 鶴見大学 教授

坂井 りりあ 鶴見大学 学生

横山 諒 鶴見大学 学生

F. Scott Fitzgerald の *The Great Gatsby* は「演技性」に満ちた小説である。タイトルに名を冠する Jay Gatsby からして、James Gats という野心溢れる田舎の貧乏青年が作り出したフィクションであり、彼は上流社会に入り込むため様々な演技を披露する。しかし演技をしているのは果たして Gatsby だけだろうか。作品冒頭で語り手 Nick が発する “If personality is an unbroken series of successful gestures, then ...” という仮定を、Gatsby 以外の登場人物に当てはめるなら何が見えてくるだろうか。4 年生の卒業研究ゼミにて発した教師の問いに二人の学生が卒業論文という形で応答した。教師の問いと学生の応答をポスター発表にて報告する。

 世界遺産をめぐる観光コミュニケーション～翻訳論及び認知文体論的視点から～

寺西 雅之 兵庫県立大学 教授
 吉田 安曇 岡山大学 非常勤講師
 福井 崇人 兵庫県立大学 学生
 竹川 美穂 兵庫県立大学 学生
 上畑 千璃 兵庫県立大学 学生

新型コロナ感染拡大前には、観光客の急激な増加が見られ、それに伴う様々な弊害も指摘されていた。中でも松浦他(2019; 2021)が指摘する「単純な翻訳ミスから外国人に対する配慮の問題まで、コミュニケーションに関わる問題」の解決は、言語学・外国語学が観光の研究・促進に貢献すべき課題と考えられる。本研究では、日本の世界遺産を紹介する観光英語の文体に着目し、外国人向けに書かれたテキストやディスコースの物語性、魅力、技法、読みやすさ・わかりにくさを翻訳論及び認知文体論の観点から追究する。本発表では、外国人による観光をシミュレーションし、ウェブページ閲覧、公共交通機関による移動、そして現地訪問を伴うフィールド調査に基づき、その過程で収集した資料の分析・考察例を紹介する。

 観光地に描かれる自然環境～語りと文体に焦点を当てて～

上畑 千璃 兵庫県立大学 学生
 福井 崇人 兵庫県立大学 学生
 竹川 美穂 兵庫県立大学 学生
 寺西 雅之 兵庫県立大学 教授

新型コロナ感染拡大前には、観光客の急激な増加が見られ、それに伴う様々な弊害も指摘されていた。中でも、環境破壊は、深刻な問題の一つである。本研究では、日本の観光地で見られる様々なテキスト(例:パンフレット、観光案内)を収集し、自然と環境保護の意識を高めるコミュニケーションの具体例を取り上げ、その内容、語り的手法、そして文体を分析する。本研究は、応用言語学、文体論の分野で近年注目を集めている「観光(地)」、「環境」、「コミュニケーション」を対象とした研究(Virdis et al. 2021 参照)に、フィールド調査に基づく社会学と異文化理解の視点を加えた学際的研究の実践例である。

[大会プログラムへ](#)

物語り、演じることを通した地域支援の取り組み—家島小学校におけるミソドラマの実践から—

天願 鈴美 兵庫県立大学 学生
 増田 貴咲 兵庫県立大学 学生
 田中 麻衣菜 兵庫県立大学 学生
 田崎 大地 兵庫県立大学 学生
 井上 靖子 兵庫県立大学 教授

コロナ禍において、対面によるコミュニケーションの機会が減少し、地域の人々の孤立や生きづらさ、不登校児童や生徒の増加などの問題がみられた。本研究では、そうした地域の人々の心に働きかける対人支援の1つとして、家島小学校の子どもらを対象に行ったミソドラマの実践を報告し、その意義を分析する。ミソドラマは、神話劇と訳し、物語を途中まで聴き、描画と即興劇の表現を行うものである。物語り、演じることがその人独自の想像力を引きだすとともに、人と人、人と土地との絆をつくる。そこに普遍と個の物語の相互作用が見られ (Jung, 1954, Lyotard, 1986)、地域の歴史や文化を、からだを介して体験化していく取り組みになることが示唆された。

New Colombo Plan によるオーストラリア人大学生の短期日本研修

大内 幹雄 Curtin University, Adjunct Professor
 三島 健司 福岡大学 教授
 Hussein Znad Curtin University, Associate Professor

オーストラリア人大学生の留学、インターンシップ支援を促進するオーストラリア政府の重点的取り組み計画「New Colombo Plan」で、西オーストラリア州のカーティン大学西豪州鉱山学部の学部学生が福岡大学で 2 週間の短期研修を行った。その成果と今後の両大学間の学生交流、学術交流について考察した。

大学生における外来語意識の稀薄化について

谷内 更紗 中国学園大学 学生
 松浦 加寿子 中国学園大学 准教授

グローバル化が進む中、私たちの周りにはカタカナ語表記が溢れている。日本語には漢語・和語・外来語の三種類の語種が存在するが、文化庁の指針「外来語の表記」(1991)にも示されているとおり、カタカナの主要な役割は外来語を表記することである。本発表では、大学生を対象に 24 個のカタカナ表記の語について外来語判定調査を実施し、外来語の稀薄化に表記が関わっているか調査した結果を報告する。また、「和製英語」を外来語とするか否かの調査結果も合わせて紹介する。

Recurrent education, life satisfaction, and anxiety in Japan during the COVID-19 pandemic

Hachiro Uchiyama Tokushima University, Associate Professor

Chigusa Uchiumi Tokushima University, Associate Professor

Hiroki Inoue Niigata University of Health and Welfare, Associate Professor

This study analyzes the status of recurrent education in Japan during the COVID-19 pandemic, particularly in terms of its relations with anxiety and life satisfaction. The data collected by the Cabinet Office of Japan from 10,128 respondents throughout Japan in September and October of 2021 are statistically scrutinized to extrapolate social tendencies concerning recurrent education, life satisfaction, and anxiety. Particular emphasis is placed on the potential impacts of life satisfaction and anxiety on recurrent education. This research is a pilot study, and its outcomes are expected to serve as bases for the primary research to be conducted in the future.

占領下日本の美術政策とシャーマン・リー：GHQ 美術記念物課の仕事から

五十嵐 潤美 岡山大学 講師

第二次大戦後、占領下の日本において美術政策を担ったのは GHQ の美術記念物課 (Arts and Monuments) であった。この部署は元々アメリカの提案により戦時中のヨーロッパで結成され、ナチスドイツによって接収された各地の美術コレクションを奪還したり、重要な美術品や建築物が戦火で破壊されることを防止したりすることを目的としていた。そのような部署が、日本で、しかも戦争終結後にどのような役割を担っていたのであろうか。GHQ が残した文書の中から、実際の業務を明らかにする。特に、この部署で重要な役割を果たし、のちにアメリカで東洋美術史専門家として活躍するシャーマン・E・リーの活動を考察する。

超短期留学を経験した医療系学生の海外志向の変容—全員留学を掲げる千葉大学の事例—

中村 絵里 千葉大学 特任助教

大西 好宣 千葉大学 教授

松本 暢平 千葉大学 助教

伊藤 彰一 千葉大学 教授

本研究の目的は、全員留学実施大学において、1 か月未満の超短期留学を評価することである。留学意欲が異なる医療系学生を対象に、留学前後のアンケート調査および留学後のインタビュー調査を実施した。海外志向が低いと自己認識していた学生は、主導力、積極性が留学後に向上する傾向が見られたほか、留学意欲が高かった学生は、次の留学や海外渡航を計画するなど、超短期留学が学生の海外志向変容に一定の影響を与えることがわかった。

Promoting pupae: Plurilingual writing workshop with authentic materials and real-world tasks

Aiko Saito Setsunan University, Professor

Stephen Markve Central Methodist University, Assistant Professor

This is a study of university EFL writing classes we taught using real-world materials ("pollinator flies") and authentic tasks ("promotion") to solve actual problems (psychological resistance, marketing in English to specific audiences). The approach to know and care about the product and specific target audiences helped students genuinely focus on their targets' need before the writers' ego. This attitude drove them to exercise their linguistic knowledge and skills for a cause greater than their grades. Such an approach generates values of L2 education in an era when fairly good machine translation is available to the masses worldwide.

大学英語教育における高年次との連携体制の構築に向けて：岡山大学の事例紹介

荻野 勝 岡山大学 教授

剣持 淑 岡山大学 教授

大年 順子 岡山大学 教授

森谷 浩士 岡山大学 准教授

五十嵐 潤美 岡山大学 講師

寺西 雅子 岡山大学 准教授

総合大学における英語教育は1・2年生対象の共通科目に重点が置かれ、高年次に至る継続的な教育体制は整備されていないことが多い。そのため学生は、社会人になってあらためて英語力の重要性を痛感し、継続的な英語学習の必要性を痛感するのではないだろうか。岡山大学では、2025年度に向けた教育改革の一環として、学士課程全体を通じた英語プログラム構築の検討を開始した。本発表では、高年次との接続体制の構築に向けた取り組みを紹介する。

英語学習者のナラティブ研究：グローバル人材のライフストーリーにみる内的要因について

那須 雅子 岡山大学 准教授

日本人が高い英語力を身に付けようとするれば、膨大なエネルギーと時間が費やされることは周知のことである。そして長期にわたる継続的な学習を実践するためには、学習時間や環境といった外的要素を確保することに加えて、「動機」や「情意」といった内的要因が重要になってくるだろう。さらに、実際に英語を使って仕事をする上では、個々の人生観や文化的アイデンティティを意識することは避けられない。日本人にとって外国語を学び使うという行為そのものは人生形成のひとつの要素と位置付けることが可能かもしれない。本発表では、海外で活躍する「グローバル人材」のライフストーリーをもとに、彼らがグローバルに活躍するに至った内的要因やその変容を調査する。さらに、日本人特有の状況を考慮したうえで、英語を用いて活躍する「グローバル人材」の人的理想モデルについて考察する。

外国にルーツを持つ子どもたちを取り残さないために何ができるか～学生団体 Jyoto' s によるグローバルな学習支援の展開

池田 康大 兵庫県立大学 学生

申田 裕大 兵庫県立大学 学生

私たち Jyoto' s は、兵庫県姫路市の城東町補習教室に通う、外国にルーツを持つ子どもたちの学習支援を行う団体です。社会的に不利な立場にある子どもたちを支援することが、SDG4 の達成に貢献すると考え、学習指導やイベントの企画などを行っています。11 月には子ども達を大学に招待してリアルに大学を体験してもらいました。今後は寄付を募り、キッザニアに就業体験に行く予定です。私たちのグローバルな実践にぜひ耳を傾けて下さい。

ポスターセッション

[オンデマンド\(PDF 閲覧\)](#)

2/18～2/25

なぜ文学的な教材を使うのか—教員の信念や意識を探るインタビュー調査から

久世 恭子 東洋大学 准教授

本研究では、大学英語教育の多様なコンテキストにおいて文学作品やその翻案としての映画などを使用する教員たちに意識や信念についてのインタビュー調査を行った。コード化による分析の結果、参加した教員たちは、文学的教材をオーセンティックで多彩な言語活動を生み出すものと評価し、これらの創造的な教材が持つ価値を活かした授業実践を行っていることがわかった。文学的教材の使用に伴う難しさについても調査結果をもとに議論する。

Vera; or The Nihilists に描かれる人間関係と人物に対する表現について

笠本 晃代 岡山大学 大学院生

Vera; or The Nihilists (1880) は Oscar Wild による初の演劇で、メロドラマ風の悲劇となっている。本発表では、作品の舞台である帝政ロシア期を浮き彫りにする登場人物の発言に注目しながら、交わされる会話を分析・考察していく。とりわけ特異な問題の用例をいくつか取り上げて、当時の人間関係や人物に対する表現方法を議論する。